

特集 住み良い町・心地よいわが町

紹介シリーズ その4 田原市

田原市が心地よい

前号で紹介した設楽町から心地よい町として紹介された田原市は、豊川用水の恵みを受けて【工業・農漁業・自然環境・生きがい】が、ほどよく調合された心地よい町なのです。

縄文時代から続く心地よさ

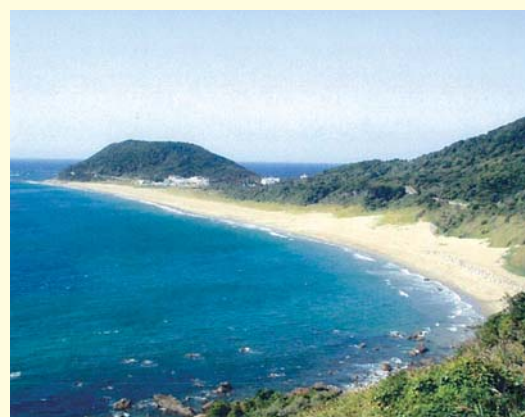
市内には福江地区の川地貝塚・保美貝塚、泉地区の伊川津貝塚・大本貝塚、田原地区の吉胡(よしご)貝塚など多くの貝塚があり、太古の昔から“衣食住”を満足できるこの地の心地よさを証明している。



風光明媚な自然

渥美郡史の緒言に、「南は太平洋に臨(のぞ)み渺茫(びようぼう)萬里の波、岸によせて不断の楽を奏(そう)し、北は内海を擁いて、清鮮不濁の水、俗塵(ぞくじん)を清めて茲(ここ)に幾千年、この風光うらかなる半島十三里の山姿水様、これわが渥美の人を生み、わが渥美の人を育みし、わが渥美の郷土である。」と記述されている。

また明治の民俗学者柳田國男が伊良湖に滞在し、あまりの心地よさを語った友は木曾谷が生んだ文豪島崎藤村であった。藤村が「名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実一つ…」と作詞した唱歌【椰子の実】には愛知県民の誰もがロマンを感じ、渥美半島に憧れました。



恋路ヶ浜

いま田原市が注目されている

次は東海沖地震だ・いや東南海地震だ・いや5連動地震を想定すべきだ<3月11日の東日本大震災、9月5日の紀伊半島大豪雨災害>など2011年の自然災害が特筆される年でした。心地よい空間の大前提が、安全と安心が確保された環境です。

予想される大地震に、田原市の備えは?県民のだれもが注目しています。

田原市の市民憲章 (平成17年10月1日制定)

わたしたちは、恵まれた自然と輝かしい伝統にはぐくまれたこのまちに誇りを持ち、互いの心がふれ合い、明るい未来が展望される郷土を築くため、この憲章を定めます。

- 一つ、自然を愛し、水と緑のやすらぎのある 美しいまちをつくりましょう。
- 一つ、心と体をきたえ、健康で明るい 生きがいのあるまちをつくりましょう。
- 一つ、教養を深め、文化のかおり高い 心豊かなまちをつくりましょう。
- 一つ、互いに助け合い、安心で安全な 暮らしやすいまちをつくりましょう。
- 一つ、勤労を尊び、活気あふれる 伸びゆくまちをつくりましょう。

田原市の自然を代表する市の花【菜の花】



春の訪れを知らせてくれる「菜の花」渥美半島の風土に適し、黄色いじゅうたんのような菜の花畑は、私たちの目を楽しませてくれるだけでなく「菜の花エコプロジェクト」など市の主要事業に活用されています。花言葉は「快活」「初々しさ」「豊かさ」。

田原市の自然を代表する市の木【くすのき】



渥美半島の風土に適し、あちこちで見ることのできる「くすのき」。長命でグングンと大木に育つ生命力から、誕生木としても使われています。春に葉が生まれ変わる常緑樹で、新緑の美しさも魅力の一つです。

田原市の誇る日本で一番

(出典『ふるさと統計情報 ポケット版田原がイチバン』H23.7.1)

農業産出額が日本一であり、花きの産出額が日本一です。なかでも[菊・観葉植物(鉢)・ばら・アルストロメリア]が日本で一番と誇ります。その結果第1次産業就業者の割合は日本一であり、完全失業率の低さが日本一を誇ります。

(※)心地良い空間の条件の一つは、家庭の生計が成り立つことなのだ。

人類進化の歴史遺産

縄文貝塚遺跡埋葬人骨出土数が日本一なのです。貝殻がアルカリ土壌にしたのが酸化を防いだのでしょうか。一度見学してください、石器時代から居住していた先人の暮らし向きが勉強できます。

ハマグリ加工工場が生計の柱であったのでしょうか?

(※)歴史と文化という貴重な財産があるのも、心地よい空間条件の一つなのだ。



吉胡(よしご)貝塚で眠る先人

愛知県で一番と誇るのは

花木の種類別産出額なのだ：トルコギキョウ・ガーベラ・スイートピー・サボテン類

野菜の種類別産出額なのだ：キャベツ・トマト・メロン・ブロッコリー・スイカ・セロリ・スイートコーン・チンゲンサイ

畜産の種類別産出額なのだ：豚・乳用牛・肉用牛  
農家1戸当たり生産農業所得であり、市町村民所得が愛知県で一番を誇る。



風車とキャベツが初冬の風物詩

県下一番を誇る自然エネルギー資産

年間風速3.7 m/s、年間日照時間2,179.8時間は、風力発電や太陽光発電に貴重な資産なのである。

自然力発電計画：日本一をめざして田原市内に所有する遊休地に自然力発電所を建設。民間大手6社は、田原市全世帯の9割に当たる約1万9千世帯分の使用電力量に相当する(太陽光発電出力5万kw・風力発電出力6,000kw、年間6,750万kw時)事業を2012年6月着工し、2013年9月の稼働を発表。

(出典『2011・10・22中日新聞』)

県で三番と誇るのは

長久手愛・地球博記念公園で2011年12月3日に行われた第6回県市町村対抗駅伝競走大会で三番となった。来年こそは豊橋市の3連覇を阻むぞと市民の意気込みは高い。